

奄美沖縄研修を終えて
大島高校 2年 碓山 咲

奄美の研修では、まず金作原という山に登りました。そこでは、奄美の豊かな自然に囲まれながら、さまざまな動植物を実際に観察しました。ガイドの方から、奄美にしか生息しない植物や、外来種による影響などについて説明を受け、普段の生活ではあまり意識しない「自然のつながり」を肌で感じることができました。奄美の森は、見た目の美しさだけでなく、生態系がとてつもなく繊細で、全てが絶妙なバランスの上に成り立っていることを実感しました。

次に訪れて印象に残っているのは「クルグル」という施設でした。ここでは、奄美の象徴ともいえる「アマミノクロウサギ」について詳しく学びました。アマミノクロウサギは夜行性で、地面に巣穴を掘って生活しているなど、他のウサギとは少し異なる特徴を持っています。私達が奄美と言えばノクロウサギだよ！と、自分たちで言うのにも関わらずあまり詳しく生態系を知らない動物でした。アマミノクロウサギは絶滅危惧種に指定されており、島外から持ち込まれたマングースやノネコなどによる捕食が大きな脅威となっている動物でした。これらの外来種問題や、開発による環境破壊など、人間の活動が自然に与える影響の大きさを学び、私たち自身の生活もまた、どこかで自然とつながっているのだと感じました。

奄美の自然について深く学ぶ中で、私が特に印象に残ったのは、「奄美のこれからは担う若い世代である私たちが知らないことが多い」ということです。美しい自然が身近にあるにもかかわらず、その裏にある問題や、生態系を守るための努力については、学校の授業だけではなかなか知る機会がありません。だからこそ、今回のように実際に現地に足を運び、自分の目で見て学ぶことの大切さを強く感じました。また、奄美大島の環境問題は個人だけで解決できるものではなく、島全体で考え、取り組んでいく必要があると強く感じました。

そして、この奄美研修の学びを踏まえて次に訪れたのが沖縄研修です。沖縄も奄美と同じように、美しい自然の中に多くの課題を抱えていました。特に印象的だったのは、辺土名高校の取り組みです。辺土名高校の生徒たちは、地域の自然環境を守るために、自分たちで調査を行ったり、地域の方々と協力して保全活動を行ったりしていました。高校生という同じ立場でありながら、環境問題に対して積極的に行動している彼らを見て、とても刺激を受けました。私たち

も「ただ学ぶだけ」で終わらず、学んだことを活かして何か行動を起こしていくべきだと感じました。

沖縄では、野生のヤンバルクイナを見ることはできませんでしたが、飼育されているヤンバルクイナを間近で観察することができました。その施設では、ヤンバルクイナがどのように生きているのか、また絶滅の危機に瀕している理由についても詳しく知ることができました。ヤンバルクイナも奄美のクロウサギと同じく、外来種による被害や道路での交通事故など、人間の生活の影響を大きく受けていることを知り、改めて「共存」という言葉の重みを考えさせられました。

また、「ヤンバル学びの森」では、実際に森の中を歩きながら、多くの希少な動植物を観察しました。奄美とはまた違う自然の姿があり、同じ南の島でもそれぞれの環境に合わせて多様な生き物たちが生きていることに驚きました。ガイドの方の話から、沖縄の森もかつては開発や伐採で失われかけた歴史があると知り、自然を守るためには長い時間と努力が必要だということを改めて実感しました。

奄美と沖縄での研修を通して、私は「自然を守ることは特別な人だけがすることではない」と感じました。高校生である私たち一人一人が関心を持ち、日常生活の中でできることを少しずつ意識していくことが大切です。例えば、ゴミの分別や節電など、小さな行動でも積み重ねれば大きな力になります。これからは、自然を“見るだけ”でなく、“守るために考え、行動する”ことを意識していきたいと思いました。

改めてこの研修に参加し、楽しい思い出を作ると共に、奄美沖縄の環境について学びを深められたことは、これからの私達の生活に良い影響を与えてくれると思います。本当に参加して良かったと感じました。まずは自分たちで出来ることを行動に移す。それがこの素敵な島を後の世代に繋げ、残していく一歩になると考えます。

講師や引率の皆さん、企画をして下さった方全てに、最高の経験をありがとうございましたと感謝を伝えたいです。